

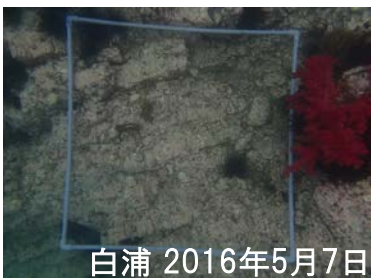
三重県熊野灘における藻場再生・維持活動

特定非営利活動法人SEA藻、三重外湾漁業協同組合、南伊勢町、紀北町、三重大学藻類学研究室、鳥羽市水産研究所

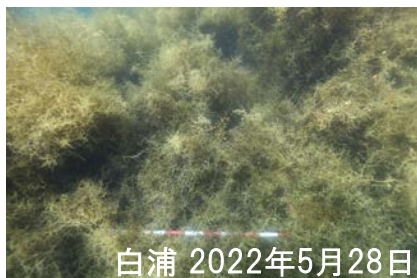
プロジェクトの概要

藻場は、海中の栄養塩や二酸化炭素(CO₂)を吸収・固定し、酸素を供給するなどの大きな役割を果たしていることから、気候変動対策の一つとして藻場の回復、保全が必要とされています。

SEA藻は、本プロジェクトの対象としている三重県熊野灘海域において、ウニ類(ガンガゼ)を駆除することで海藻が増加すると報告(倉島ら、2014)された手法を用い、ウニ類(ガンガゼ)の駆除活動を継続して行い、藻場の再生・維持に取り組んできました。



白浦 2016年5月7日



白浦 2022年5月28日



ガンガゼを食べるイセエビ



白浦



宿浦

プロジェクトの特徴・PRポイント

SEA藻は三重外湾漁業協同組合、南伊勢町、紀北町、三重大学藻類学研究室、鳥羽市水産研究所と協同で2015年からウニ類(ガンガゼ)の駆除活動を実施してきました。

駆除活動は、一般ダイバー、三重大学ダイビングサークル、愛知県立三谷水産高等学校生等のボランティアダイバーの力を借りて実施してきました。

その他、海藻の種を出す母藻の設置や芽(種苗)の取り付けを行ってきました。

2022年現在までに、SEA藻は本プロジェクトの実施場所(宿浦、白浦)の他5地区で同様の活動に関わってきました。Jブルークレジットを活用して、今後も熊野灘海域の駆除活動を継続し、藻場の維持・拡大を通じて二酸化炭素(CO₂)吸収量の維持・拡大に寄与していきます。



アオリイカの卵



ガンガゼを食べるマダイ